

学力向上に効果のある取組事例

別府市立緑丘小学校

⑦生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開。

取組の具体①

○15分間の「みどりタイム」と月末の「異学年学び合い」

毎週火曜日の昼休み後に設定している15分間の短時間学習「みどりタイム」を軸に、児童の学力実態に合わせた補充学習を実施。さらに月末の火曜日には、異学年がペアとなって教え合う「異学年学び合い」を取り入れることで、学力の定着のみならず、自己存在感や共感的人間関係等の育成を同時に目指している。

① 自己存在感の育成（「役に立っている」実感）

- ・高学年の役割：低学年の質問に答えたり教えたりする役割を担うことで、「自分の説明が下級生の役に立った」「頼りにされている」という強い自己存在感を実感させる。
- ・低学年の安心感：高学年に温かく見守られながら学び丸付けをしてもらうことで、自分の努力や存在を認めてもらえ、喜びを感じる。

② 共感的人間関係の育成（「温かく受け入れられている」実感）

- ・異学年交流：各クラス出席番号で前半・後半の2グループに分け、異なる学年が少人数で温かい雰囲気の中で対話をしながらプリント学習をする。
- ・具体的なペア構成：1年と4年 2年と5年 6年と3年
- ・特別支援学級の児童については、支援学級で個別の課題に取り組み、それぞれの児童が安心できる環境を確保する。

③ 自己決定の場の提供（「自ら考え、判断する」機会）

- ・「自ら考える力」の育成：低学年は、自分でプリントを解き、分からない部分を高学年に質問します。
- ・高学年は、事前（本番の2週間前）にペア学年のプリントを解き、どのように説明すれば低学年に伝わるかを考える。

◇具体的なスケジュール

事前準備（4～6年生）：本番の2週間前にペア学年のプリントを解いておく。

本番（全学年）：月末の火曜日「みどりタイム」に異学年学び合いを実施。

